

徳くぼ報

No.0047

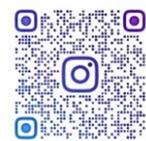
発行
令和3年9月
発行元 徳泉寺
仙台市宮城野区
榴岡3-10-3
(022) 297-4248
メールアドレス
tokusen.ji.sendai@gmail.com



ホームページ
tokusenji-sendai.com



Instagram
[tokusenji_sendai](https://www.instagram.com/tokusenji_sendai)



差異(ちがひ)を認める世界の発見

【楽しく遊んでいただけれど…】

夏休み、ご縁があつて小学生にお話しさせてもらう機会をいただきました。子どもたちがふざけ合っているうちに、一人の子に向かつて拾ったゴミを投げつけたというのです。本人たちには楽しく遊んでいたという意識しかないものの、相手の子はどう感じたのでしょうか。せっきー(お坊さん)から子どもたちにお話をしてもらえないか、というご相談でした。どうやって伝えるべきか悩んでいる時に、浮かんで来た一冊の絵本があります。

【ぼくたちは みんな ちよとずつちがう
そのひとだけの みえかた かんじかたをもっている】

ヨシタケシンスケさんの『見えるとか見えないとか』という絵本の読み聞かせから「気づく」ということの大切さについて子どもたちにお話をさせてもらいました。

絵本の中で宇宙飛行士の「ぼく」が、いろんな星を訪れるのですが、三つ目が当たり前の星では、目が二つしかない「ぼく」は、まっすぐ歩けるのか、背中が見えるのか気を使われてヘンな気持ちになります。生まれつき全部の目が見えないという人もいて、その人の世界の感じ方は「ぼく」とずいぶん違っています。それは「別の世界に住んでいる」ってことなの

でしょうか。でも、そもそも僕たちは皆ちよとずつ違う。皆それぞれの人にしかわからない、その人だけの見え方や感じ方を持っています。

大きい人にしか見えないもの。小さい人にしか見つけられないもの。友だちがたくさんいる人にしかできないこと。おとなしい人だけが気づくことができるもの。皆よりゆっくりな人だけが感じられるもの。大人にしかわからないこと。子どもにしかわからないこと。同じところを探しながら、違う所をお互いに面白がれないんじゃないかな、という絵本です。

ぼくたちは皆、感じ方が違うから、もしかしたらぼくの「楽しい」が誰かの「痛い」になっていないかな。大切なのは「気づく」ということ、気づいた人が教えてあげるといふことだと思ふんだ。という話を子どもたちにさせてもらいました。今回のことを通して、差異(ちがひ)に気づくいうことをとても考えさせられました。

